

平成23年度 愛知県臨床検査精度管理調査報告会 細胞検査部門

精度管理事業部員 住吉尚之
実務担当者 榊原沙知
実務担当者 成田淳

はじめに

細胞検査部門では細胞検査における細胞の見方および所見の表現方法の統一化を目的とした精度管理調査を実施してきた。

本年度は婦人科・呼吸器・泌尿器の分野においてフォトサーベイ形式にて6症例を出題した。

方法

Ⅰ 参加施設

平成23年度精度管理調査参加施設：119施設

細胞検査部門参加施設：51施設

Ⅰ 評価方法

各症例の判定・推定病変について正解および許容正解を設定し評価した。

細胞所見については評価を行わず、集計のみ実施とした。

正解・許容正解

症例	設問	正解（許容正解）
症例 1	判定	クラス クラス N I L M 陰性
	推定病変	濾胞性頸管炎、リンパ性頸管炎（炎症） など
症例 2	判定	クラス クラス N I L M 陰性
	推定病変	萎縮性膣炎、老人性膣炎（炎症） など
症例 3	判定	クラス クラス N I L M 陰性（AGC-NOS）
	推定病変	子宮頸管腺上皮細胞（扁平上皮化生細胞）

正解・許容正解

症例	設問	正解（許容正解）
症例 4	判定	陰性 クラス
	推定病変	結核、サルコイドーシス、肉芽腫性病変 など
症例 5	判定	陰性 クラス
	推定病変	ウイルス感染 など
症例 6	判定	陰性 クラス
	推定病変	尿路上皮細胞

結果

- 正解を設けた16問の回答結果は、全問正解が47施設(92%)、14問正解が3施設(6%)、13問正解が1施設(2%)であった。
- 各設問における正解率は以下のとおり

	症例1	症例2	症例3	症例4	症例5	症例6
判定	98%	98%	94%	100%	100%	98%
推定病変	100%	100%	96%	100%	100%	98%

判定について

- 1 今回、婦人科症例に関しては日母のクラス分類とベセスダシステムの2種類の分類を用意し、各施設の日常業務で行っている判定方法で回答を得た。

ベセスダシステムとは

- 日本産婦人科医会は2007年12月に従来の日母分類(クラス分類)を廃し『ベセスダシステム2001』による報告様式を採用することを決定した。この結果2009年4月以降、わが国の子宮頸部細胞診は、体制の整った施設より順次移行する方針となった。

ベセスダシステム

結果	略語	推定される病理診断	従来のクラス分類
1)陰性	NILM	非腫瘍性所見、炎症	、
2)意義不明な異型扁平上皮細胞	ASC - US	軽度扁平上皮内病変疑い	~ a
3)HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	ASC - H	高度扁平上皮内病変疑い	a ~ b
4)軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV感染、軽度異形成	a
5)高度扁平上皮内病変	HSIL	中等度異形成、高度異形成、上皮内癌	a、 b、
6)扁平上皮癌	SCC	扁平上皮癌	

結果	略語	推定される病理診断	従来のクラス分類
7)異型腺細胞	AGC	腺異型または腺癌疑い	
8)上皮内腺癌	AIS	上皮内腺癌	
9)腺癌	Adenocarcinoma	腺癌	
10)その他の悪性腫瘍	Other malign.	その他の悪性腫瘍	

判定の際には検体の適・不適の判断を明記し、適正検体についてのみ判定する

判定について

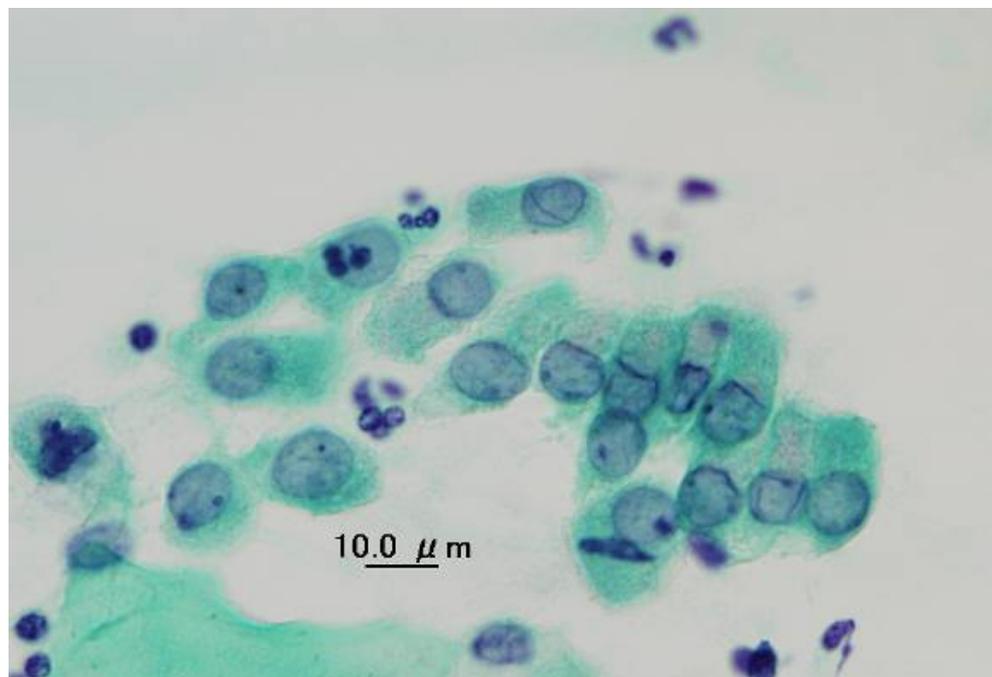
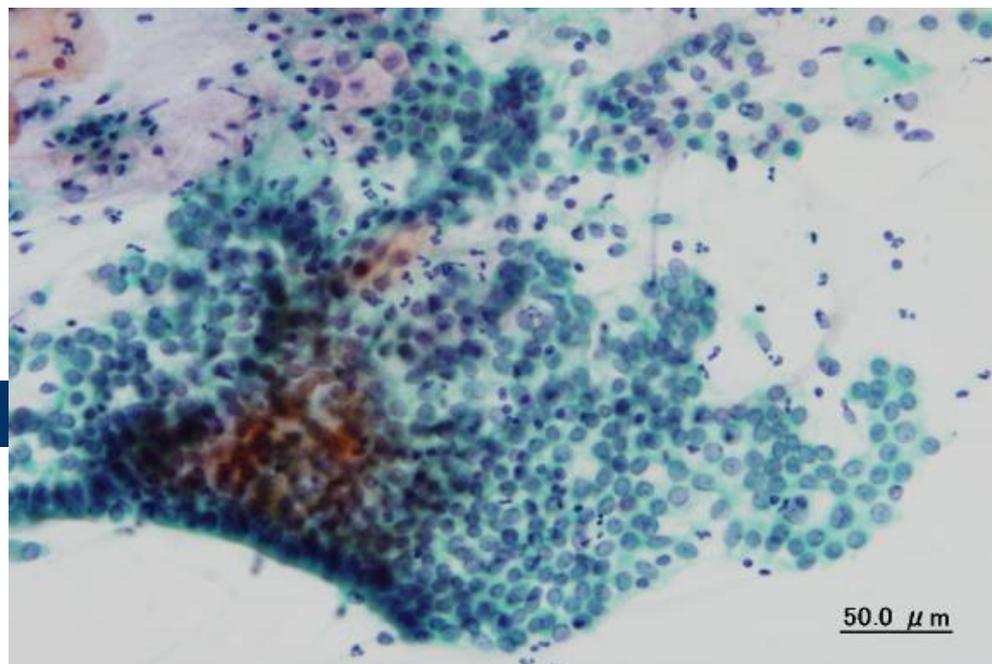
- 判定方法については施設間差が見られた。
 - クラス分類とベセスダ併用 : 35施設 (68%)
 - ベセスダ単独 : 10施設 (20%)
 - クラス分類単独 : 5施設 (10%)
 - その他の判定 : 1施設 (2%)

判定方法の統一化は精度管理上重要課題であり、今後更に検討が進むことを期待している。

各症例について

- 1 症例3および症例6においては、悪性細胞との鑑別に苦慮した施設が見受けられた。

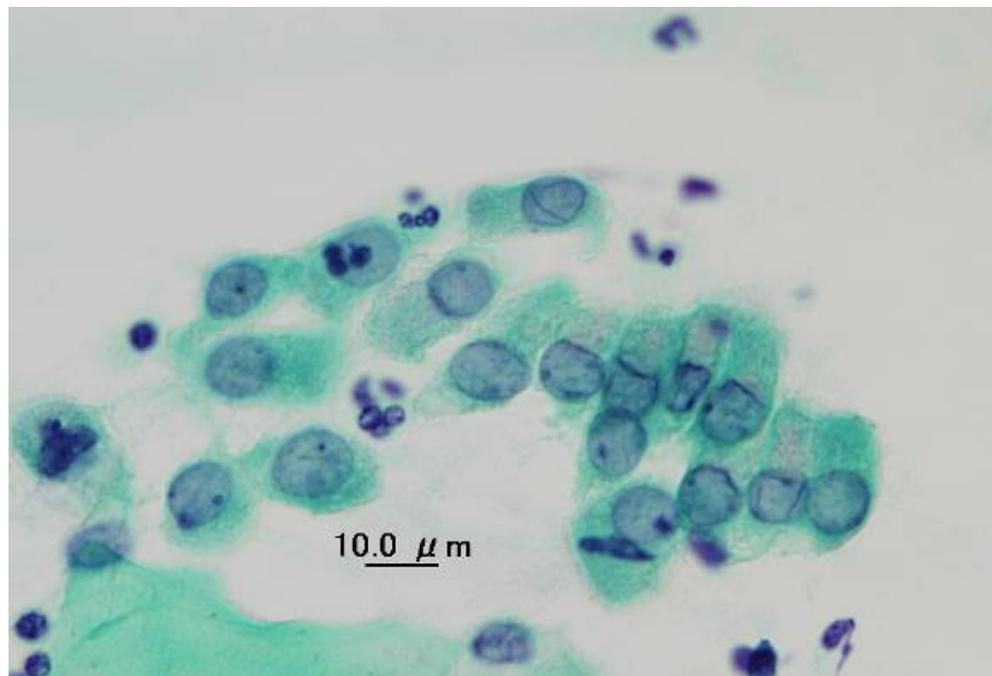
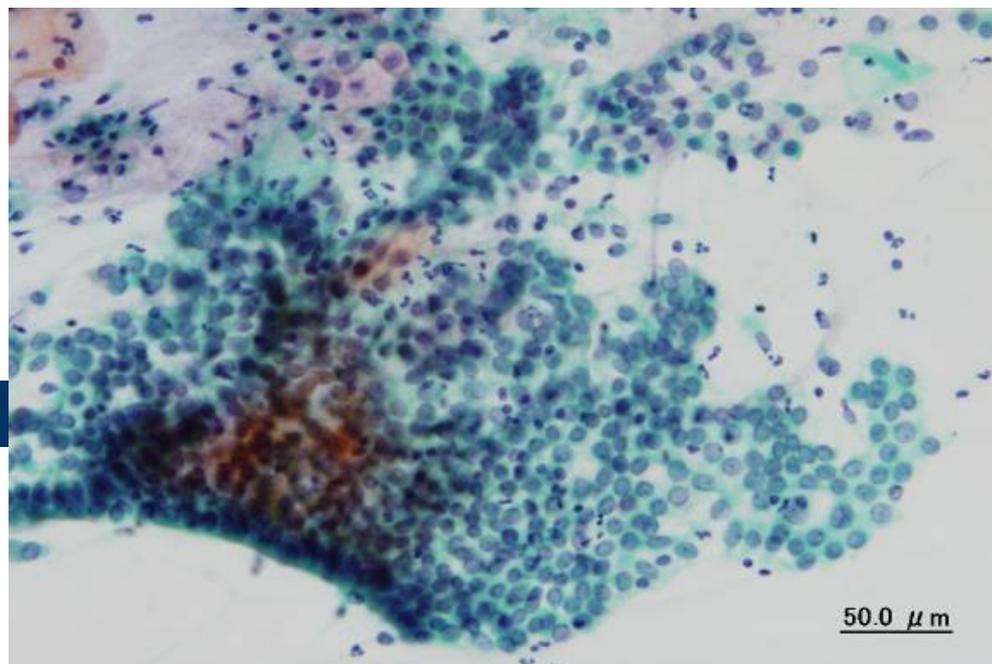
症例3



判定	回答施設数	回答率(%)
クラス	4	8
クラス	1	2
クラス NILM	21	41
クラス NILM	13	25
NILM	9	18
クラス AIS	1	2
Other	1	2
Suspicious, 悪性腺腫or AISの疑い	1	2

症例 3

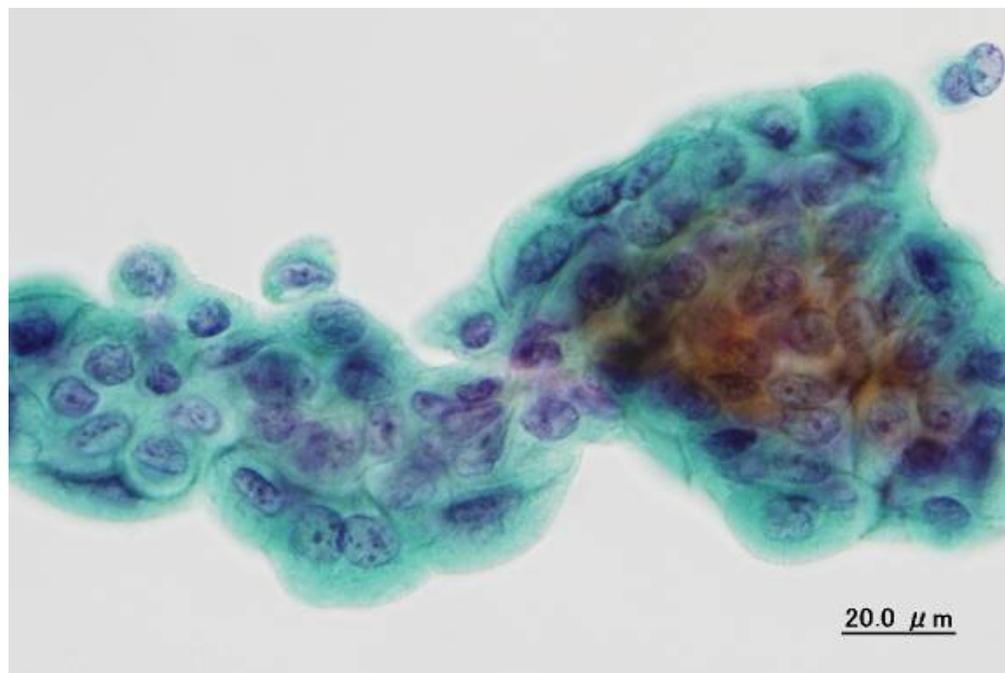
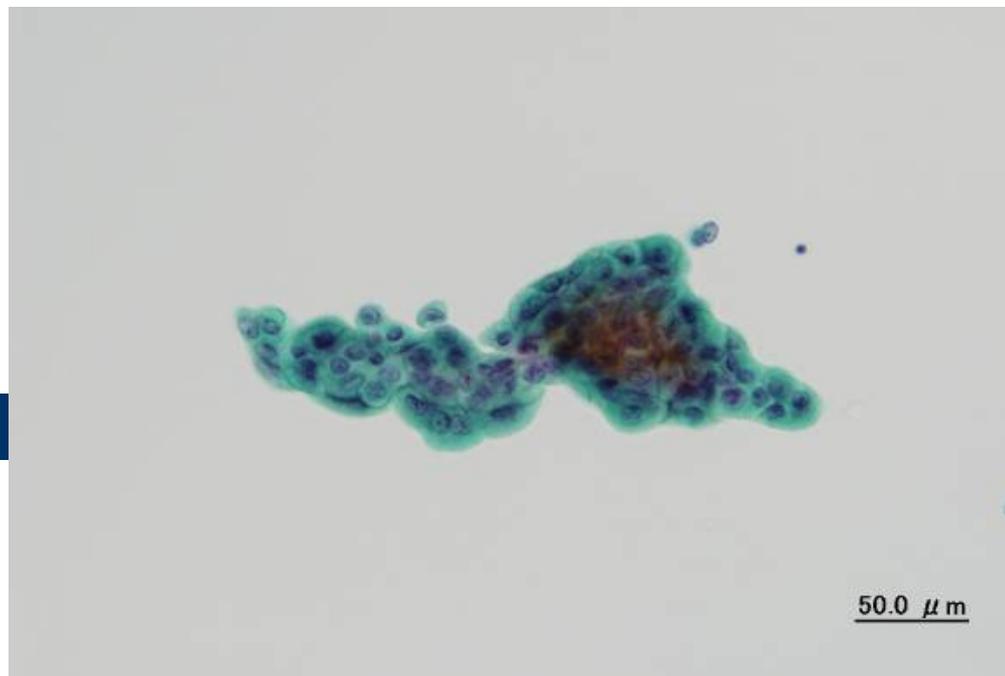
推定病変	回答施設数	回答率 (%)
子宮頸管腺 上皮細胞	47	92
扁平上皮 化生細胞	2	4
上皮内癌	1	2
子宮頸部腺癌	1	2



症例 6

判定	回答施設数	回答率 (%)
陰性	49	96
陽性	1	2
クラス	1	2

推定病変	回答施設数	回答率 (%)
尿路上皮細胞	50	98
尿路上皮癌	1	2



症例について

- 1 日常業務においても、細胞所見を詳細に観察することや採取方法による細胞の出現形式を知ることが必要であり、これらを習熟することが偽陽性の回避にもつながると思われる。

考察

- 1 今回の精度管理調査では正常、良性所見を的確に判断できることを主眼に置き症例選択を行った。また、日常業務と同様に細胞所見から推定疾患を導けるように設問を作成し、例年と比べ記述式の設問の比率を高くした。

考察

- 1 細胞所見の回答には若干のばらつきが見られる部分もあったが、判定および推定病変は各施設が同じ結論に至っていた。
- 1 細胞所見の微細な部分を観察することは重要であるが、細部のみに捉われず、細胞の出現様式や背景所見を的確に判断し、標本全体から組織像を推定していくことが適正な細胞診診断の報告につながるのではないかと考える。

ご清聴ありがとうございました